

## 会長から見た JCV の歴史

デービス啓子

会長のデービス啓子です。

私は正直に申しまして、JCVの役員をするまでは、あまりボランティア精神豊富な人間ではありませんでした。ボランティアするより自分のビジネスをしたほうが楽しいと思っていました。しかし、このJCVの役員を始めて、仕事では会えないジャンルの人に会え、損得も全くないこの世界は面白いと思うようになりました。自分の仕事では徹夜はしません、しかし、ボランティアでは徹夜をしています。そんな訳でJCV会長を5回、ジャパン・フェスティバル実行委員長を4回もやりました。これもひとえに役員、委員、会員の皆様のおかげだと思います。一人で黙々とやるようなことであればここまで続ける事は出来なかったと思います。

2006年、私の会長就任の年は日豪交流30周年記念の年にあたりました。当時小泉首相がオーストラリアにいられて、オーストラリアのジョン・ハワード首相との会談で、日豪交流30周年記念の行事をやることを決められたそうです。その年は200を越える数々のイベントがオーストラリア中で行われたそうです。その中のひとつにオーストラリアに住んでいる功績のあった日本人の団体に賞を与えるというコンテストがあり、JCVが見事に賞を獲得いたしました。JCVの活動が認められ、外務省から麻生外務大臣賞を受けたのです。その時は総領事館公邸に役員一同が招待を受けたのを思い出します。これがJCVが頂いた最高の賞でした。

役員をやってみると、JCVは色々な年間行事をやっているのだなと感じます。カラオケパーティーやバス旅行もやった事があります。1月は新年会、3月はムーンパ・パレード、4月は運動会、そして5月になりますとジャパン・フェスティバルがあります。日本の文化を異国で味わっていただくと言う趣旨で、毎年5000-7000人くらいの入場者があり好評です。

今年3月11日は、忘れもしない東日本大震災があって、日本を遠く離れて住む私達は、何かをしたいという気持ちはあっても、何もできない歯がゆさを感じました。少しでも被災地のお役に立ちたいと思い、JCVでは私と本多事務局長は、寝る間も惜しんでわずか1週間で街頭募金の企画案を作り、日本人会、豪日協会に声をかけ、共に募金活動を行いました。こうして日本人が行う初めての大規模の総勢140人あまりの街頭募金活動が実現したのです。この共同募金活動をして、メルボルン在住の日本人が力をあわせれば、こんなことも出来るのだと、深く感銘を受けました。その夕方、集められた募金缶のその重さに、涙が出るほどうれしかったです。そして募金をしてくれたオーストラリア人の心の温かさにも感謝しました。皆さんが心をひとつにしてがんばったこの気持ちは被災地にしっかり届いたと思います。

又こんなこともありました。2005年の事です。1982年のJCV設立以来、クラブハウスを持ちたいというのは常に私たちの夢でした。この年はまだ私は会長ではありませんでしたが、クラブハウスがだめならクラブルームでと提案する人がいました。反対論もかなり根強かったのですが試験的にやってみよう、その年の総会で決定

されました。場所はプリンダース駅のすぐ近くのロスハウス。クラブルームを持つことによりJCVの位置づけもより明確になるし、何かするには市内でなければと言うのが理由でした。場所もよいのだからお部屋も時間貸しすれば良いとか、日本語教室を開き生徒さんからお金を頂けば1週間に110ドルくらいは回収できると予想していたのですが、どなたも借りる人はいませんでした。コンピューターも寄付してくれる人がいました。しかし最終的にはクラブルームはJCVの物置になってしまいました。結局月1回のJCV役員会と実りの会くらいに使われただけでした。そのため約1年半後にはクラブルームを閉める事になりました。この間、約8千ドル近くがクラブルームの経費として我々の少ない基金から消えていきました。事務員をおきたいという夢もありましたが、議論しながらそのままクラブルーム退却になったわけです。その苦い経験から、公的な建物を安く利用したほうが良いのではなからうかという風に考えが変わってきました。その頃のJCVの基金は2万ドルしかありませんでした。

その後、順調にジャパン・フェスティバルからの収益で我々の元金も増え、2011年には10万ドルになりました。後6年くらいすれば、利子とJFからの収益で20万ドル位にはなるでしょう。そうすれば、年間1万ドルくらいの利子になるので、精神的にも余裕を持ってどこか安い事務所を借りられるようになるのではないかと思います。2005年の時はJCVの元金がこの事務所を借りる事で全部消えてしまうのではないかと不安に思ったのは私だけではないでしょう。

最近では、ウェブの方も充実して2010年に今のウェブサイトが完成いたしました。ここでは、過去5年間をさかのぼりNLを読むことが出来ます。JFの写真をみることも出来ます。これから積み重なる情報でもっと充実していくのではないかと楽しみにしております。

私は会長として3つの柱をスローガンにかかげました。それは会員の健康、日本人の高齢者を考える、子供に対する日本語の教育と日本の文化継承です。高齢者のケアのほうはケアリンクが大活躍しています。子供に対する日本の教育のために、今年はジャパン・フェスティバルで絵画コンテストを復活させました。

やはり大事なのは、会員の方の心と体の健康です。皆様方が幸せに生活していただくことを常に心よりお祈りいたしております。

6月19日の邦楽コンサートは今年度の役員最後の企画でした。和太鼓りんどうの坂さんからの申し出があり、実施されました。これは、本当に大成功だったと思います。これにより宮尾副会長就任以来の夢であった冬の餅つきイベントも実現できました。音楽とぜんざいという組み合わせで、心温かいイベントでした。午後の4時間が、あっという間に過ぎてしまいました。

これらのどのイベントを取りましても、目に見えないところでたくさんの方々のボランティアの方々に支えていただきました。これはジャパン・フェスティバルの実行委員長をやっている時もひしひしと感じました。JFは大変な労力と時間もかかりますが、役員、会員の方々に支えられることにより実現したと思っています。皆様方も是非健康で楽しい日々をお過ごしください。そして、これからもJCVの会員である事を楽しんで頂きたいと思っております。